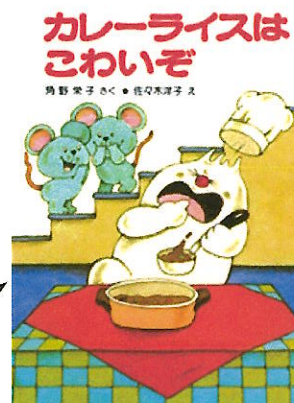


2年生ブックトーク図書紹介

8月17日に、今月の歌「おばけなんてないさ」にちなんで、「おばけなんて・・・こわくない？」というテーマでブックトークをしました。こわくない、かわいい(?)おばけが大集合！紹介した本はこちらです。



『おばけなんてないさ』せなけいこ/ポプラ社
「おばけなんてないさ」の歌詞が、せなけいこの切り絵でそのままかわいい絵本になっています。おばけがほんとうに出てきても、こんなおばけならこわくない...？



『カレーライスがこわいぞ』角田栄子/ポプラ社

アッチはおばけの男の子。町で一番のレストランの屋根うらに住んでいます。ある時アッチのとなりに、ねずみの兄弟がひっこしてきました。自分ではこわいおばけのつもりなのに、ねずみたちはアッチをこわがるどころか「かわいいおばけちゃん」と言う始末。こわがりたいと泣くアッチに、えっちゃんがかくれたアドバイスは「たまにはからいものを食べてピリッとしたら？」でした。さて、アッチは何を始めるのでしょうか。



『おばけ美術館にいらっしやい』 柏葉幸子/ポプラ社

こかげ美術館は、小さい美術館で人気も今いち。有名な作品もなく、なんだか気味の悪いことがおこるのでますます人が来ません。亡くなった館長の遺言に「次の館長は10歳以下の女の子に限る」と書かれていたため、小学5年生のまひるが、お父さんの会社の人から頼まれて館長になることに…。

さて、まひるが美術館に行ってみたら、絵の中の人物が出てきておしゃべりをはじめたり、騎士や鎧兜の武者が動き出したり不思議なことだらけ。ここはなんと、おばけたちが我が物顔でのさばっている美術館だったのです…！



『小さいおばけ』

オトフリート・フロイスラー/徳間書店

フクロウ城に住む小さいおばけは、気のいい夜おばけ。真夜中12時きっかりに目をさまし、城の肖像画たちとおしゃべりしたり、ミミスクのシューフーをたずねて行ったりして毎日楽しく暮らしています。

でもある時昼の世界を見てみたくなり…

『大どろぼうホッツェンプロッツ』の作者が描く、ユーモアたっぷりの物語。



『いじわるなないしょオバケ』

ティエリー・ロブレヒト/文溪堂

お母さんの大事な真珠の首かざり。内緒で出して遊んだら、糸が切れて真珠がバラバラになっちゃった！慌てて真珠をぜんぶ集めて引き出しのおくにかくして、なんでもないふりをしていたけれど、ないしょオバケがわたしのひみつをしゃべっちゃう...！？